

平成 21 年 3 月定例会質問原稿

当市の今後の学校教育について、奥越地区の高校再編についてお伺いします。

まず、この再編に対しての、勝山市は今後の対応について伺います。

福井県の発表は、現在の生徒数の減少をみるとやむを得ないとはいえ、結果的に勝山市として新設校の設置場所は残念な結果となりました。

20年3月定例会においての回答はもとより、平成11年の同校の廃校問題以来、勝山市として、様々な申し入れを県に行い活動してきたはずです。

しかし、過去の市議会での質問に対する回答は、勝山市教育委員会の所管事項でない為、見守るしかないとのニュアンスが強く感じられるところです。

さて、その福井県の発表内容をみますと、新設校の設置予定場所である、現在の大野東高校の敷地は中部縦貫道IC建設予定地に近く将来的に国道と県道に挟まれる場所であり決してよい教育環境とは思えません。新しい体制は、少なくともその立地条件からは子供たちのために計画されたものとは思えない場所です。

一方、定員数は、勝山高校に情報科が1クラス増設され180人の定員となります。

大野高校は1クラスあたりの定員を減らし、さらに1クラス削減し、54人の定員減となります。

奥越総枠としては、86人も大幅な定員減であり、新たな競争と負担を生み出す可能性あるばかりでなく、通学手段等も今後の課題となります。

勝山市内から、大野への通学手段は基本的には路線バスです。

2011年3月の勝山市の中学校卒業予定生徒数は約230人です。勝山高校の定員に対し少なくとも50人は市外への通学となります。

また、新設の産業高校には情報科は設置されず、勝山高校のみに設置されることや、大野高校の定員減少を考慮すると、さらに多くなる可能性があります。

現在、大野方面へのバス路線である京福バス大野勝山線は、朝の通学時間帯には大野方面へ 7:55 の1本、午後勝山方面には 15:14 16:44 17:45 19:14 の4本です。

特に朝の通学時間帯には十分とはいえず、路線自体も不都合です。コミュニティバスの活用や、路線の変更等を行うべきだと考えます。

そして、大野、福井方面だけではなく、今後は坂井、あわら方面への交通を考慮する必要が出

てくる可能性もあります。

福井県は、計画案の中で、『生徒の通学に支障をきたさないよう、スクールバスの運行、寄宿舎の設置などについて検討する。』としています。通学手段に対する今後の施策を伺います。

また、2012年度には「勝山南高校」は3年生のみになります。在校生は定員いっぱい90人、今年の志願状況を見ると、実際には60人に届くかどうかと思われます。

クラスが少ないと教育に不適として統合を進めるのであれば、これは無責任ともいえる状況であり、単に経費の削減にしか見えません。

そこで、最後の2年間は他の高校と連携した学校運営の可能性を探るべきではないかと思いますが、市としての見解を伺います。

さらには、『事務等の引き継ぎ、卒業証明書等の発行、同窓会関係事務などについては、原則として統合先の学校が引き継ぐものとするが、引継先の決定に当たっては、生徒や保護者、学校関係者等の意向に十分配慮する。』としています。その利便性を考えると、新設高校ではなく、勝山高校に引き継ぐ様申し込むべきです。

今後の勝山市の方針を伺います。

次に勝山市の文教地区についてお伺いします

かつて、現在建設中の「はたや記念館」の敷地を含めて、付近一体を勝山市の文教地区として整備する計画があったように聞きます。

市民会館から図書館・西小学校から勝山南高校に至る一体は、勝山市の発展にとっての文化教育ゾーンとして適正が高いと思います。

今後は、中央公園のリニューアルや市営体育館の建設構想等もあり、様々な問題を含みますが、都市計画の要素として、第5次総合計画にも考慮すべきで、隣接するJAテラル越前の支所跡地を含めて、勝山市の特色を生かした文教地区を指定し、整備をするお考えはないでしょうか。

山岸市長の招集挨拶にもありましたが、「はたや記念館」は今夏開館することになります。発表では、同記念館は、資料館、観光拠点、学習機能を持つ施設となるようです。

そこで、資料館として博物館法による登録をするのか、登録せず、寄付等に対する税制上の優遇措置はないが、観光施設も併設可能な、博物館類似施設として運営していくのか、今後の運営方針を伺います。

また、この一体に含まれる、市営体育館の耐震補強計画、西小学校の管理棟の耐震補強などが新年度予算に計上されました。

現在の西小学校の管理等は、旧勝山中学校の管理棟でもあり、きわめて古く老朽化していると思われる。

生徒数の減少を考えるとその補強の必要性に疑問を感じます。

また、新しい市営体育館建設に向けて検討を始める中で、市営体育館補強工事はどの程度を行うのでしょうか。お考えを伺います。

2番目に地区および自治組織について伺います

近年、地方自治が重要視され、賛否はあるものの、地方自治体は自由に使える交付金を求めています。

また、今後は地方自治の中での、自治会活動の重要性を見直す必要性もでてきています。

勝山市が進める様々な環境活動なども、基本組織として自治組織がありますが、高齢化、人口減で活動資金は減少の一途をたどっています。各団体とも資金不足に悩んでいます。確かに、個々に目的を持つ補助金はあります。しかし、自治会がより自発的な活動を行うためには、その使途に制限を受けない補助金を、拡充する必要があると考えます。「勝山市補助金等交付規則」では、補助金は申請し市長が認めれば支給されるようにもとれます。自治会に対するそのような補助金支給の可能性について、方針を含めて見解をうかがいます。

一方、自治会以外の自治組織(婦人会、青年団等)は災害時ばかりでなく、各地区の活動の根幹ともいえます。近年まちづくり委員会や青少年育成団体、消費者団体等、新たな組織が作られました。従来との連携がとれず、対応できないままに組織が解散するケースが見受けられます。また、所轄部所が異なるために、組織間の連携が取れず、類似の組織が複数存在するケースもめだってきています。組織のあり方について、勝山市として縦横の連携を図るとともに、組織の活性化を図るために、その位置づけなどに明快な方針を示すお考えはないでしょうか。次に行政区のあり方についておうかがいます。

勝山市も、市制施行以来はや半世紀あまりを経過しました。

この間に、昭和町、旭町等新しい町名が誕生した一方、消えていった町名も多くあります。

現在勝山市には、旧村部中心に人口が10人以下の行政区がいくつかあります。

きわめて少ない人口は自治組織として機能しにくく、一部の方に大きい負担がかかる可能性があります。自治会が機能するためには、バランスのとれた人口が必要ではないでしょうか。

旧村部だけでなく、中心市街地においても、同様の状況がみられ、転入に際してその負担が障害ともなる可能性があります。

障害をのぞく観点以外の点、たとえば本町通りにおいては、その景観保存を実施する一環として、地旧町名を再度採用することなどを考慮しながら、地区割りを再編成する計画がないかとともに、猪野毛屋、旭町3丁目などの住所の扱いがどのようになっているのかを伺います。

さらに、今後の小中学校再編に向けて、地区割りが障害となるケースも考えられます。学校区と行政区を必ず一致させる必要性があるのかをうかがいます。

3番目に新年度予算の施策等について

まず、次期福井国体にむけて、競技の誘致活動をどのように行うのかを伺います。

福井県では新年度予算に競技場の改修を前倒しで盛り込みましたし、福井市も市営体育館の大規模改修予算を計上しました。すでに、越前市は、バドミントン競技の誘致に向けて運動をはじめています。ほかにも、福井県に対して活動を始めたところもあると聞きます。

残念ながら、勝山市においては、前回開催された、バドミントン、クレー射撃は、会場が老朽化や規模、その他の問題により確保できない状況ですが、今後の誘致運動に対する見解を伺います。

次に個人および企業への支援策について

最初に、緊急雇用、ふるさと対策についてうかがいます。

最近、市内企業においても社員が解雇された話を多く聞くようになりました。現在の厳しい経済状況下では、勝山市においても、雇用の維持をはかり、かつ新規の雇用を創出しなければなりません。

勝山市では、様々な支援策を実施していますが、その利用率は高くない様に聞きます。その周知方法に新聞折り込み等の工夫が必要なのではないでしょうか。

また、新年度予算で打ち出した対策に、3年間で、のべ8000日の雇用創出対策があります。

企業が雇用するには当たり、一人あたり販管費などの必要経費を含め、最低でも一人あたり月額50万円程度はかかると考えられます。

したがって、予算計上された8400万円分は計算すると、1年あたり5人にもなりません。

この総枠の増額を求めて、その総枠について伺います。

また、補修や、備品の追加など小さい金額の発注を増やし、細部にも支援が行き渡るようなことも考えることができます。

現在は、若中年層の雇用が安定していない状況が多くなっています。高齢者のみではなく、勝山市として、若干でもこの層の雇用も創出されるような直接的な契約も考えることが必要と考えます。

さらに、当市では、小学校までの子育て支援は大変手厚いものがありますが、中高生を持つ家庭への支援はいまだ薄いと思います。高校への進学率は現在ほぼ100%の状況のです。

勝山市の特色としてこの世代に支援策を打ち出すお考えがないか、また、勝山市自体は勝山市において最大の企業ともいえます。そこで市有車両のうち、ある程度老朽化の進んでいる車両を前倒しで更新し、間接的支援策とすることができないかを伺います。

続いて産業振興施策についてお伺いします

勝山市は本年度を観光元年として、観光施策の強化を打ち出しています。

新年度予算にもそのための費用が計上されています。これを有効に活用するために、現在の組織を改編も進められるようです。

新年度、観光強化を図るために、商工観光課の一部を独立させますが、その部所はどの建物に設置されるのでしょうか。将来的に、規模を拡大して、文化スポーツを含め、総合公社にすることもいいかと思ひますし、観光振興の意味合いからも市役所から出て、はたや記念館などの庁舎外施設に置くお考えはないでしょうか。

また、福井県の新年度予算では、今年の夏休み期間中に、恐竜ラッピングバスを名古屋から運行する計画になっていますが、勝山市のラッピングバスも夏休み期間中は県内各市町発とし、平泉寺等を組み込み、観光ルートとして観光客の誘致をはかる方法もあるのではないのでしょうか。

市境を超えるバス等の運行は厳しいかもしれませんが、通学、通院の場合も同様の状況です

から、実施に向けて研究を進めていただきたいと思います。そして、勝山駅前の整備と連動して、市内コミュニティバスの起点は今後どこにおくのかも検討すべきです。以上見解を伺います。

福井県の新年度予算では、恐竜博物館は10周年迎えての展示更新の予算を計上しました。ちやまごんランドの展示も恐竜博以来大きな変更もなく、機能を十分に発揮していないようにみえます。長尾山総合公園には指定管理者制度を導入しますが、その展示にも更新が必要ではないでしょうか。茶屋等も景観に留意すべきだと思いますが、見解をうかがいます。

また、いよいよ、「はたや記念館」の開館まで、残り半年を切りましたが、そのPRは出遅れ気味ではないでしょうか。オープン前にポスター、パンフレットは、準備配布すべきです。現在の状況と、今年度作成されるパンフレットの種類と数量、対前年比の伸び率を含めての現在の状況をうかがいます。

歳入および扶助費等の見通しについてですが、

21年度の当初予算案を見る限り、昨年度に比べて緊縮予算となっています。その中でも、国民健康保険への繰り出し金等の扶助費全般の予算は、その多くが前年度を下回っています。

後期高齢者制度移行による、予測が難しいために20年度同様に補正予算で補正されるなら、22年度では修正されるのでしょうか。現在の勝山市の人口構成から考えると増加はあるにしても減少は考えにくい状況です。その、理由をうかがいます。

また、特別会計のなかで、21年度において上下水道料金の改定を行う予定ではなかったかと思います。同会計は徐々に厳しくなっており、一般会計からの繰り出し金が大きくなりつつあります。新年度からは、維持管理を包括委託しました。料金改定は大きく先送りはできないと思いますが、そのほかの証明書交付の手数料等も含めて、改訂へのお考えをうかがいます。

次に、現在の経済状況下では、所得の著しい減少もしくは、所得自体をなくした家庭も発生していると思われる。

昨年末以来の生活保護等の申請件数、相談件数は増加しているものと思われる。

その認定についてマスコミで報道されるような状況が発生していないでしょうか。

また、このように所得が減少した場合は、介護保険における特養施設等の、入居者の負担限

度額認定に該当すると思いますが、認定は7月更新であり、すぐに反映されないようです。とすれば何らかの、支援策を講じることが必要ではないでしょうか。見解を伺います。

最後に生活社会産業基盤施設、設備等の整備やあり方について伺います。

まず、福井社会保険病院の存続に関して、大野市との話し合いが行われているとおもいます。

福井社会保険病院は、奥越地区唯一の総合病院であり、地区の利用者の利便を図るために、大野市と連携した運動が必要と思われるのですが、両者には温度差があるように感じます。

大野勝山間の交通手段等の連携を含めて、一体となった運動が必要ではないでしょうか。見解を伺います。

勝山市にも現在行っている支援策はありますが、さらにすすめて、産科医をはじめとする医者不足に対応し、独自の支援制度を提案するなど、他の公共インフラと同様の支援を行い、明確な姿勢を見せるべきと考えますが、新たな施策を講じるお考えはないでしょうか。

次に公園等の整備に関して

凍結中の長尾山総合公園整備事業は当年3月末を持って、継続申請の可能な5年間の期間が終わります。

これは、凍結の段階をすぎて、とりあえず事業打ち切りとなると考えてよろしいでしょうか。

また、この間に、長尾山には様々な変化があったはずですが。

松枯れ、大鷹等の生息状況等現在の長尾山の状況を伺とともに、事業の再申請の可能性を含め、2期工事予定地の土地についても、今後の方針を伺います。

最後に生活道路、通学道路の整備に関して伺います

通学路等の市道に舗装の破損や、側溝などに危険場所がみられます。

通学路の危険箇所について自ら調査をおこなうなどして把握し、対応しているのでしょうか。

また、街路樹の痛みが激しい路線もあります。景観的にもよいとはいえませんが、長年にわたり放置されるケースもあります。早急な改善を求めます。

道路舗装の破損は観光的には、歩きにくいだけでなく、水はねなどによりイメージダウンにもなりますが、改良が進んでいない様です。

毎年の再舗装率は道路総延長に対してどれだけののでしょうか。

すべて、地元から要望がなければ改良されないのか見解を伺います。

最後に、今月末には、中部縦貫道の一部が開通します。これに伴う交通量の変化予測は完了しているかどうか。完了しているならその結果を伺います。